

文 献 目 録

事項別目録

歴史地理学一般

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
1	福井好行	日本歴史地理学の展開	紀1	1-11	1959
2	菊地利夫	内田寛一教授の歴史地理学上の位置と学風	紀1	12-29	1959
3	水津一朗	ドイツにおける歴史地理学の特質	紀1	30-45	1959
4	菊池一雅	フランスにおける歴史地理学の沿革	紀1	47-62	1959
5	藤岡謙二郎	イギリスの地理教育と歴史地理研究に対する雑感	紀1	63-73	1959
6	板倉勝高	文化形成を基礎づける歴史地理学	紀1	74-90	1959
7	山寄謹哉	歴史地理学研究法に関する若干の問題	紀1	91-101	1959
8	坪内庄次	近代化の歴史地理学序説	紀1	102-114	1959
9	松村安一	歴史地理学に関する一二の問題	紀1	115-131	1959
10	木村 宏	地域の比較研究と歴史地理学の立場	紀1	132-141	1959
11	千葉徳爾	歴史地理学における民俗資料の意義とその取扱い	紀1	142-160	1959
12	小野忠熙	先・原史地域に関する諸問題	紀2	1-29	1960
13	谷岡武雄	フランス学派と歴史地理	紀2	203-220	1960
14	辻田右左男	アメリカ歴史地理学の展望	紀2	221-228	1960
15	鏡味完二	歴史地理の研究に対する地名学の寄与	紀2	249-258	1960
16	川上健三	海洋の歴史地理	紀13	5-17	1971
17	米倉二郎	歴史地理学の伝統と課題-中国地理学史よりアジア地域の課題に及ぶ-	紀20	7-19	1978
18	菊地利夫	歴史地理学における最近の動向	紀20	21-48	1978
19	中田栄一	歴史の地理的基底-歴史地理学への断想-	紀20	49-68	1978
20	小野忠熙	歴史地理学における考古地理学の任務	紀20	69-78	1978
21	安田喜憲	自然環境と人類のかかわりあいの史的研究序説	紀20	79-112	1978
22	山寄謹哉	創刊100号記念特集号の発刊に際して	報100	1	1978
23	浅香幸雄	印象深い思出と解決したい課題	報100	3-6	1978
24	藤岡謙二郎	私の夢と学会への期待	報100	7-9	1978
25	米倉二郎	喜田貞吉先生の人と学問	報100	10-13	1978
26	菊地利夫	歴史地理学会報第100号を記念して	報100	14-19	1978
27	中田栄一	歴史地理学会運営20年の回顧	報100	20-24	1978
28	豊田和二	ヘカタイオスの地理的世界	報107	12-26	1980
29	山田安彦	北上川の河川災害の地域的抵抗性と歴史地理的課題-水文歴			

	史地理学への提唱-	紀22	5-28	1980
30	大嶽幸彦 明治前期のわが国における都鄙関係に関する二、三の予察的考察	歴113	26-30	1981
31	黒崎千晴 解題にかえて-一つの願望的展望-	紀25	5-20	1983
32	大嶽幸彦 明治時代における旧播磨国中・西部河川流域の都鄙関係-歴史地理学への一研究法の試み-	紀25	71-90	1983
33	大嶽幸彦 幕末前後における二人の先覚者の地理思想-吉田松陰と福沢諭吉の旅行記を中心に-	歴122	15-20	1983
34	田村正夫 解題-都市・村落関係の歴史地理	紀26	5-13	1984
35	竹内啓一 解題-歴史地理学研究における空間認知-	紀27	5-14	1985
36	栗原尚子 マドリッド地理学協会の創設と初期の活動（1876-1901）-スペイン地理学会史の一側面	歴130	18-37	1985
37	黒崎千晴 文明圏と破砕帯	歴138	1-13	1987
38	菊地利夫 歴史地理学・人文地理学における人文主義的方法論序説-実証主義的方法論との対比-	歴143	23-35	1988
39	米倉二郎 歴史地理学と考古学の学際的の溝に挑む	歴143	34-36	1988
40	黒崎千晴 盆地研究の視座	紀31	5-21	1989
41	青木栄一 シンポジウム「変革期の歴史地理」を考える	歴152	1-3	1991
42	千葉徳爾 歴史地理学における「変革期」	歴152	4-15	1991
43	「変革期の歴史地理」シンポジウム討論	歴152	71-81	1991
44	山田安彦 「東北日本と西南日本」課題設定の趣旨説明	歴157	1-7	1992
45	山田安彦 「東北日本と西南日本」の課題と意義	歴162	1-3	1993
46	竹内啓一 イタリアにおける南北-国際比較の視座の提起-	歴162	18-32	1993
47	谷岡武雄 東北日本と西南日本とを歴史地理学的に対比させることは可能か-中世以前の場合-	歴162	33-53	1993
48	共同課題「東北日本と西南日本」の討議摘録	歴162	54-63	1993
49	水津一朗 ネオ古典地理学をめざして -「外野席」の地理学-	歴163	2-16	1993
50	米倉二郎 中国歴史地理国際学術討論会に出席して	歴165	38-39	1993
51	日下雅義 シンポジウム「環境と歴史地理」開催に当たって	歴172	1	1995
52	島津俊之 もうひとつの「地域変換法」-関戸明子報告によせて-	歴172	17-20	1995
53	滝沢由美子 地籍図による地域環境と景観の復原 -その意義と利用上の問題点-	歴172	57-75	1995
54	古田悦造 地籍図による復原における留意点とその説明・解釈-滝沢由美子報告によせて-	歴172	76-79	1995
55	金坂清則 古典にみる環境・景観・空間認識と歴史地理学-古代日本の場合-	歴172	80-104	1995
56	渋谷鎮明 朝鮮半島における風水地理学説を用いた地形認識	歴174	1-15	1995
57	菊地利夫 北京大学大学院における講義と中国の歴史地理学の現状	歴174	23-32	1995

自然

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
58	日下雅義	地形環境と復原	報103	11-16	1979
59	籠瀬良明	浅い沼ベリの浜堤例	紀22	93-108	1980
60	木原克司	微地形復原の方法と課題	歴118	14-26	1982
61	中山正民	地形環境からみた東北日本と西南日本-自然環境認識の一手 段として-	歴157	8-23	1992
62	高橋 学	古代末以降における臨海平野の地形環境と土地開発 -河内平 野の島島開発を中心に-	歴167	1-15	1994
63	小野寺 淳	絵図に描かれた自然環境 -出羽国絵図の植生表現を例に-	歴172	21-35	1995
64	吉田敏弘	小野寺淳報告「絵図に描かれた自然環境」によせて	歴172	36-38	1995
65	宮本真二	京都盆地西縁・小泉川沖積低地における地形環境の変遷と人 類の居住-長岡京跡右京368次遺跡を例として-	歴176	44-54	1995

先史・遺跡

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
66	三友国五郎	縄文中期の集落	紀2	31-46	1960
67	小野忠熙	先原史時代における居住帯の垂直的遷移現象-本州西端部の場合	紀5	5-30	1963
68	伊達宗泰	古墳と平野の問題	紀5	31-47	1963
69	田中豊治	隠岐島の考古地理的概観	紀5	49-63	1963
70	足利健亮	律令時代における郡家の歴史地理学的研究-遺趾の探求と復原 の試み-	紀5	105-136	1963
71	佐島直三郎	沖積平野における考古歴史地理学的研究予報-北上川中流の例-	紀5	243-249	1963
72	山本 実	中世前期の城館について-畠山館・真田城を中心にして-	報83	2-11	1976
73	中林 保	但馬国郡家試考	報91	15-24	1977
74	三友国五郎	遺跡分布論	報93	1-12	1977
75	三浦鉄郎	東北地方における中世城館の歴史地理学的研究-秋田地方の 研究-	報106	1-10	1979
76	中塚 良	首長墓系古墳の立地分析-京都府山城盆地・亀岡盆地を例に-	紀31	51-82	1989

人口

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
77	矢守一彦	彦根城下における人口動態について	紀3	129-143	1961

78	岸本 実	明治大正期における離村地域の形成と都市人口の集積過程（第1報）	紀8	139-155	1966
79	岸本 実	藩政期における日本の人口配置-都市人口の集積過程の研究第3報-	紀9	159-174	1967
80	岸本 実	人口減少地域の研究-関東地方の場合-	紀11	203-218	1969
81	浅沼 操	近世における越前黒目村の人口動態	紀12	231-256	1970
82	上田正夫	歴史地理学における地域人口研究の意義	紀14	5-28	1972
83	坪内庄次	近世飛騨国高山町の人口分析-近世飛騨国人口論 第2報-	紀14	45-58	1972
84	一最芳秋	わが国近世の島嶼人口	紀14	59-86	1972
85	井戸庄三	幕末・明治初期の通婚圏-徳島藩明治3年戸籍の分析-	紀14	87-109	1972
86	川本忠平	津軽地方の出稼労働とその構造変化	紀14	111-135	1972
87	川崎 敏	本邦における若年労働力転出の地域的変容	紀14	137-162	1972
88	天井勝海	日本の人口変動（1920-1970年）	紀14	163-177	1972
89	Kishimoto, M.	Population Changes in and around Tokyo and Osaka: 1920 - 1930	紀14	256-260	1972
90	松原義継	宗門帳よりみたる高須輪中本阿弥新田の戸口増減	紀15	227-249	1973
91	浅香幸雄	近世末における越中西部上使街道（脇街道）中田宿の戸口分析	紀19	183-213	1977
92	岸本 実	藩政後期以降における日本の人口配置の変動	報91	1-14	1977
93	溝口常俊	甲州における近世の通婚圏	報95	1-11	1978
94	小野寺 淳	北陸農民の北関東移住	紀21	175-195	1979
95	西村睦男	藩領人口と城下町人口	歴111	1-15	1980
96	千葉徳爾	小笠原父島における過去帳記載死亡者数の変動について	紀24	5-18	1982
97	溝口常俊	幕藩社会確立期における家族形態の変容	歴121	17-31	1983
98	中西僚太郎	明治前期における畿内綿作・綿織物業地域の人口変動	紀26	33-56	1984
99	川口 洋	通婚圏からみた江戸時代後期の「大坂地域」	紀26	81-101	1984
100	川口 洋	近世非領国地域の通婚圏について	歴124	17-28	1984
101	川口 洋	近畿地方における遠方婚について-17~19世紀-	歴140	1-16	1988
102	千葉徳爾	凶荒と人口減少	歴141	17-24	1988
103	川口 洋	江戸時代における人口分析の方法-奥会津地域における「宗門改人別家別帳」のデータベース化を事例として-	歴151	16-33	1990
104	河原典史	福井県旧西田村における第二次世界大戦前後の通婚圏	歴161	28-40	1992

村 落

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
105	池浦正春	実証的研究を通じてみた歴史地理学的地域とその変貌-和歌山県海南市旦来部落の場合を通じて-	紀2	79-98	1960
106	三浦 宏	木曾山脈南東部山村地域の変容	紀6	81-97	1964

107	池田雅美	豪族屋敷の形式	紀6	181-190	1964
108	山田安彦	南部藩越前堀開拓村落の微視的歴史地理に関する若干の問題	紀7	25-56	1965
109	菊地利夫	九十九里平野における塚崎新田の開発と村落構成-後進地帯における町人請負新田の事例-	紀7	57-70	1965
110	小栗 宏	明治新村の性格と農用林野-序説的に-	紀8	5-17	1966
111	三友国五郎	関東地方の古代集落	紀9	5-25	1967
112	長井政太郎	寺社の在家	紀9	27-44	1967
	・工藤定雄				
113	池田雅美	豪族集落の研究と課題-東北地方を中心として-	紀9	45-71	1967
114	芥川竜男	酒匂川流域における豪族屋敷について	紀9	73-84	1967
115	菊地利夫	豪族屋敷村と擬制的豪族屋敷村	紀10	5-22	1968
116	渡辺久夫	松尾神社領伯耆国東郷庄の一考察-主として「和与中分図」を中心に-	紀10	41-58	1968
117	田中豊治	村落共同体の成立と構造-島嶼経済の構造と変貌 その8-	紀10	59-78	1968
118	田里友哲	沖縄における屋取集落の研究と課題	紀10	79-95	1968
119	中田栄一	利根川流域の集落に関する諸問題	紀10	97-123	1968
120	山口源吾	関東山地における高距縁辺集落	紀10	191-218	1968
121	小栗 宏	漁業集落における共同体の結合の地縁的基盤について	紀13	125-139	1971
122	藤本孝一	近衛家山城国富家殿について	報82	2-11	1975
123	田畑久夫	揖斐川上流の木地屋集落の崩壊過程-小津の場合-	紀18	249-271	1976
124	平岡昭利	明治初期における家島諸島の三つの浦-その集落間の異質性を問題にして-	紀18	273-294	1976
125	大越勝秋	泉州入会紛争志	報87	15-21	1976
126	桐野利彦	糖業と散村-奄美大島の例-	報88	14-27	1976
127	矢ヶ崎孝雄	白山麓白峰村-高度経済成長への対応-	報89	18-31	1977
128	西脇健治郎	多芸輪中における新田集落の成立と消滅-輪頂部の大跡・大跡新田をめぐって-	報95	12-20	1978
129	田畑久夫	氏子狩帳よりみた木地屋集落の変貌	報95	21-26	1978
130	南雲栄治	榛名山麓南東における井出村の集落移動	紀20	195-222	1978
131	細井淳志郎	近世村落の性格形成と育成林の展開に関する要因-遠江国小川町を事例に-	紀20	223-245	1978
132	田畑久夫	ムラヅクリ後の木地屋集落の変貌-糸魚川市大所木地屋の場合-	紀20	247-268	1978
133	橋本征治	家制度と村落社会-四国山地における隠居制山村の場合-	紀20	269-292	1978
134	梶川勇作	尾張国春日井郡の新田村	報102	20-25	1979
135	浜谷正人	明治以降における村落と入会林野の近代化について	報104	1-11	1979
136	坂口慶治	鈴鹿山地北部における一峠集落（五僧）の廃村化過程と移住域	紀23	191-223	1981
137	田畑久夫	奥三河における木地屋集落の変貌-井山を事例として-	紀23	225-248	1981
138	山田正浩	”セド”と”シマ”-名古屋東郊における村落内小地域集団の事例研究, 「尾張徇行記」の記述を出発点として-	歴112	29-40	1981

139	菊池万雄	江戸時代末期における甲府盆地上今井村の生業	歴113	16-25	1981
140	田畑久夫	わが国における海士集落の変貌-五島列島宇久島平を事例として-	紀24	69-100	1982
141	中村佐太郎	花蓮-開拓移民村について-	歴116	30-34	1982
142	田畑久夫 ・紀 禎哉 ・寺本陽子	近代以降の吐喝喇列島における村落構造の変貌-宝島を事例として-	紀25	91-116	1983
143	浜谷正人	日本農村における社会空間の実証分析-いわゆる「村落領域」を事例として-	歴120	1-14	1983
144	五十嵐 勉	伊賀国における郷土集落の地域構造	紀26	57-79	1984
145	田畑久夫	壱岐島における「アマ」集落の変貌-小崎浦・八幡浦を事例として-	歴125	20-34	1984
146	乾 幸次	井出扇状地における初期庄園と古道	歴127	34-63	1984
147	古田悦造	近世武蔵国佃島における集落の変容と空間認知	紀27	195-210	1985
148	森 勝彦	南嶺山地の同姓村-湖南省藍山県・嘉禾県の事例-	歴128	26-33	1985
149	桑原公德	近世における新田村落の歴史地理的研究-信州安曇郡塩島新田を例として-	歴132	1-20	1986
150	河島一仁	南河内における歴史的集落のプランに関する若干の考察-道路屈曲の機能を中心に-	歴135	1-15	1986
151	出田和久	豊後国田染荘の景観変遷-中世荘園村落景観への接近にむけて-	紀32	189-215	1989
152	池田勝幸	労力交換「ユイ」からみた村落社会の空間構造	歴156	15-25	1991
153	田中達也	山間地域における近世村の成立過程-秩父郡阿熊村を中心にして-	歴164	20-32	1993

都 市

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
154	藤本利治	歴史地理学における都市研究の一課題-同業者町研究の意義-	紀1	182-197	1959
155	浅香幸雄	国府の位置と相模国府の三遷	紀2	47-58	1960
156	中島義一	市場集落に関する一二の問題	紀3	95-113	1961
157	樋口節夫	名古屋のCBD-その図型的把握に関する二、三の問題-	紀3	115-128	1961
158	矢守一彦	朝鮮における城郭の諸形式と都城プランの系列について	紀4	111-125	1962
159	山口恵一郎	都市地域形成の世界史的系列における日本の特質	紀4	149-166	1962
160	藤岡謙二郎	和泉国府を中心とした古代都市圏の歴史考古地理的概観	紀5	65-78	1963
161	矢守一彦	城下町の地域性-その面積的構成比と微地形利用について-	紀5	185-214	1963
162	山口恵一郎	都市地域形成における産業革命期の意義	紀6	149-164	1964
163	山口恵一郎	明治後期の都市形成-市町村人口順位概表-	紀8	169-214	1966
164	松本豊寿	城下町成立論	紀9	107-126	1967

165	小和田哲男	城下町囲郭論序説	紀9	127-136	1967
166	吉川博康	甲州街道中布田五ヶ宿について	紀9	147-158	1967
167	中島義一	一万石大名の城下町についての一, 二の資料	紀9	175-187	1967
168	藤本利治	門前町の形成と社寺の機能-伊勢国山田の場合-	紀10	23-39	1968
169	籠瀬良明	仙台市街の町割形態-住居表示事業への関連-	紀10	219-234	1968
170	中島義一	明治前期の町-上総の場合-	紀11	219-234	1969
171	矢守一彦	都市史における広場-とくにドイツについて-	紀12	257-292	1970
172	田村勝正	野蒜築港と新市街地の景観	紀13	141-166	1971
173	中林 保	因幡国における中世の城郭と城郭下集落の歴史地理学的考察	紀14	227-254	1972
174	木下 良	国府所在地一覧表の作成について	報84	2-16	1976
175	木下 良	国府の「十字街」について	紀19	5-32	1977
176	小林健太郎	戦国末期土佐国における地方的中心集落-高岡郡黒岩新町の事例研究-	紀19	33-65	1977
177	中林 保	近世鳥取藩の城下町	紀19	67-107	1977
178	南雲栄治	榛名神社における門前町の復元と変遷について	紀19	129-159	1977
179	井上政一	地方小都市における商店街の形成と変貌-群馬県富岡市富岡町の場合-	紀19	215-238	1977
180	脇田武光	都市の地価(地代)に関する立地論的研究と方法論上の諸問題	紀19	263-282	1977
181	山田安彦	都城的集落の機能と象徴	紀20	115-149	1978
182	土田良一	近世甲府城下町における都市構造の変容過程-人口推移を中心に-	紀20	179-194	1978
183	水田義一	寺内町の形態再考	報96	15-26	1978
184	山中 進	明治・大正期における大阪市街地周辺地域の変容	報101	12-23	1979
185	吉原健一郎	江戸橋広小路の形成と構造	報101	24-32	1979
186	古田悦造	市場町の土地所有形態について-福島県喜多方市小田村を中心として-	報102	13-19	1979
187	菊地利夫	会津盆地の修験山伏による定期市の市立とその歴史心理	報103	1-10	1979
188	碓井照子	大正・昭和初期における都市の形成と土地所有について-生駒門前町の事例-	報105	23-33	1979
189	金井 年	歴史地理学からみた寺内町の性格-八尾の三つの寺内町を比較して-	報108	1-12	1980
190	池田善昭	松山市三津浜の港町としての盛衰について	歴122	21-34	1983
191	南波 純	近世代官所町の歴史地理学的考察	紀26	171-186	1984
192	金井 年	吉崎における中世的景観と近世的景観-絵図を通してみた-	紀26	187-202	1984
193	加藤 貴	名主役料からみた江戸の地域構造	歴125	1-19	1984
194	金井 年	城下町の空間構造再考-城地・町地の面積比率の問題を中心に-	紀27	173-194	1985
195	金井 年	役負担からみた近世都市プランの考察	歴133	2-21	1986
196	太田晃舜	ベトナムにおける都市形成過程の特徴-ハノイ, ホーチミン両都市の比較考察-	歴136	18-27	1987

197	河野敬一	山梨県における明治前期の中心地システム	歴139	15-33	1987
198	鈴木貞夫	景観変遷から見た城下町の形成と崩壊-福島県いわき市平の 中世の飯野平城を中心にして-	紀30	27-43	1988
199	矢野司郎	陣屋町の形態と構造について-近江高島郡大溝陣屋の場合-	紀31	153-168	1989
200	八杉 淳	大溝城下の地域構造とその特質	紀31	169-188	1989
201	藤岡ひろ子	中世・ヴィスビーとベルゲンのドイツ人居留地	歴146	1-19	1989
202	中川 正	1923年におけるルイジアナ州バトンルージュの都市構造	歴147	1-9	1989
203	神 英雄	桓武朝における造都と征討に関する歴史地理学的考察	紀32	21-43	1990
204	千葉徳爾	城塞都市の形成と挫折	紀32	89-107	1990
205	中藤 淳	近世盛岡城下外の新津志田町における遊廊の変遷過程	歴148	23-39	1990
206	足利健亮	都市形態の変革期と都市社会の変革期	歴152	16-19	1991
207	山田安彦	足利報告に対するコメント-変革期の歴史地理に関する基本 的視角-	歴152	20-28	1991
208	土平 博	大和国田原本陣屋町の地域構造	歴155	1-21	1991
209	藤岡ひろ子	ニューオーリーンの歴史的核心地-ヴェーカレ(Vieux Carre)-	歴155	22-42	1991
210	矢守一彦	御城下札ノ辻考-地域類型との関連において-	歴157	43-57	1992
211	藤岡ひろ子	外国人居留地の構造-横浜と神戸-	歴157	58-84	1992
212	李 恵恩	1930年～1935年の京城府（ソウル）における民族別居住地分 化の変遷	歴160	2-20	1992
213	藤岡ひろ子	上海の「中心商業地」の貿易機能とその配置-1930年頃-	歴164	1-19	1993
214	山田志乃布	近世駿府町人地における地域的差異	歴166	20-33	1993
215	土平 博	大和松山藩織田氏の廃絶に伴う居館・侍屋敷地区の耕地化	歴171	19-33	1994
216	米倉二郎	平安京の基線について-再論:山城の条里と平安京-	歴174	16-22	1995
217	渡辺秀一	金中都の空間構成-外郭をめぐって-	歴175	30-42	1995
218	金子晃之	近世後期における江戸行楽地の地域的特色-「江戸名所図会」 からみた行動文化-	歴176	20-43	1995

経済地理一般

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
219	田村正夫	東北地方北部における明治初期の開発政策-特に蚕糸業との 関連において-	紀7	71-93	1965
220	牧野洋一	九州中部山村の社倉の分布とその意義	紀20	293-319	1978
221	牧野洋一	明治後期の九州中部山村における生産と消費	報96	1-14	1978
222	松田松男	労働市場の需要側からみた大正中期から昭和初期における出 稼ぎ労働の特質-その予察的考察-	歴131	1-18	1985
223	川崎俊郎	明治・大正期における銀行立地と地域特性-長野県東信地域を			

農業・牧畜

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
224	内田 実	土地利用の歴史地理的研究の一方法	紀1	199-210	1959
225	太田晃舜	畑作新田で標識される武蔵野台地上の近世水田	紀3	193-200	1961
226	浮田典良	耕地の分散とその変化	紀5	161-184	1963
227	前田正名	七世紀および八世紀における河西通廊地帯の農耕地拡大について	紀7	159-174	1965
228	新井寿郎	明治年代における本邦の養蚕地域の成立	紀8	47-75	1966
229	山田邦彦	甲府盆地東部の戦後における果樹園地帯の変貌	紀8	169-184	1966
230	丹治妙子	江戸時代における農業生産力の発展について-安倍川流域の新田集落に関する歴史地理学的研究-	紀11	39-53	1969
231	矢ヶ崎孝雄	手取川溪谷における耕地利用の変遷	紀11	55-71	1969
232	長井政太郎	山形県内の換金作物の衰微と稲作の発展	紀11	101-124	1969
233	太田晃舜	カンボジアにおける稲作生産の変遷-特にアウタルキーを中心として-	紀11	125-145	1969
234	阿部和夫	江刺平野における土地改良の展開(上)	紀15	173-192	1973
235	阿部和夫	江刺平野における土地改良の展開(下)	紀16	225-245	1974
236	岡本兼佳	旧東京市の初期近郊農業	紀16	247-270	1974
237	阿部和夫	磐井川下流平野における耕地整理の展開	報97	1-9	1978
238	田中豊治	焼畑, 牧, 牧畑と日本畑作農業展開問題	紀23	85-106	1981
239	松山利夫	『斐太後風土記』による近代飛騨地方の作物結合の復元	紀23	249-271	1981
240	田中豊治	日本畑作農業展開と切畑の位置づけ	歴114	13-27	1981
241	乾 幸次	山城盆地南部における明治期の商業的農業	歴115	1-14	1981
242	中野栄治	明治・大正期における紀ノ川流域の綿業-川上木綿を中心として-	歴115	29-36	1981
243	紀 禎哉	シチトウイの伝播と栽培の中心-国東半島の事例-	歴117	1-12	1982
244	阿部和夫	明治末期における岩手県の農業政策と耕地整理事業	歴118	1-13	1982
245	田中豊治	近世関東の畑請地の歴史地理的検討	歴119	1-15	1982
246	田中豊治	近世関東の畑請地の歴史地理的性格(2)	歴124	29-35	1984
247	中島峰広	「近世農書」にみられる畑地灌漑	歴149	3-32	1990
248	溝口常俊	農業・農村の変革期	歴152	29-44	1991
249	小倉 真	溝口報告に対するコメント	歴152	45-47	1991
250	三浦 宏	中央高地南縁における賃・耕馬, 役・肉牛隆替の軌跡	歴154	18-36	1991
251	松村祝男	近世中・後期における柑橘の「商品化」過程と生産構造-熊本県河内町の事例-	歴160	21-42	1992

252	中島峰広	わが国における江戸後期～明治前期の商品作物の畑地灌漑	歴161	2-27	1992
253	元木 靖	日本列島の東西差における稲作の意義	歴162	4-17	1993
254	中西僚太郎	明治前期における耕牛・耕馬の分布と牛馬耕普及の地域性について	歴169	2-22	1994
255	岩崎公弥	尾張地方における近世綿作の地域的特色	歴170	1-25	1994

水利・治水

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
256	カール・A・ウィットフォーク (中島健一訳) 治水文明		紀4	167-193	1962
257	河野通博	中国の水利建設	紀7	175-200	1965
258	小和田哲男	戦国大名浅井氏の灌漑支配	紀11	19-37	1969
259	加藤武夫	愛知用水事業の歴史地理的考察	紀13	185-204	1971
260	五味武臣	興津川下流域における農業水利秩序の変質	紀17	303-321	1975
261	伊藤安男	輪中の水論-定杭約定と定杭の形式分類-	報86	1-13	1976
262	野崎清孝	大和国穴師郷と巻向川筋の水利構造	報89	1-17	1977
263	池田善昭	松江平野における居住立地の展開と水問題-治水をめぐる問題と城下町形成-	報105	1-10	1979
264	阿部和夫	北上盆地南端部の水利と土地改良	紀22	69-91	1980
265	佐藤甚次郎 ・佐々木史郎 ・大羅陽一	荒川流域における水塚	紀22	127-148	1980
266	末尾至行	京都の水車-琵琶湖疏水事業との関連における-	紀22	149-168	1980
267	大越勝秋	和泉地方における重要井堰と湧水帯	紀22	169-175	1980
268	末尾至行	在来水車と水力電気事業の出会い-京都府下の諸事例にみるパターン-	歴113	1-15	1981
269	末尾至行	トルコにおける水力利用とその近代化	紀25	205-231	1983
270	吉本昌弘	『播磨国風土記』に治水・利水様式を読む	紀29	5-28	1987
271	伊藤寿和	大和国斑鳩地域の溜池をめぐって-古代から近世初期を中心に-	紀29	29-54	1987
272	野間晴雄	『疏導要書』にみる佐賀藩の治水と利水	紀29	55-83	1987
273	末尾至行	『徴発物件一覧表』の水車統計にみる利水状況	紀29	85-110	1987
274	佐島直三郎	東北地方主要河川における農業水利事業-主として本川（本流）頭首工による取水利用-	紀29	111-146	1987
275	阿由葉 司	利根川下流の水塚について	紀29	147-166	1987
276	末尾至行	京都盆地における水力利用パターンの変遷-明治・大正期における-	紀31	23-49	1989
277	野間晴雄	近江盆地における伝統的農業水利体系と村落結合-『農業ノ			

条里・土地割

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
278	猪俣好光	三島扇状地の湧水と条里遺構	紀3	173-191	1961
279	倉田康夫	伊勢国員弁川沿岸の条里遺構-桑名・員弁郡を中心として-	紀3	201-206	1961
280	大越勝秋	大阪市域の条里遺制-条里景観の乏しい都市域の条里研究の事例-	紀4	195-214	1962
281	佐々木清治	荘園体制下における条里の研究-特に条里の型について-	紀7	133-158	1965
282	桑原公徳 ・山田安彦	但馬豊岡盆地の条里と地籍図	報87	22-29	1976
283	戸祭由美夫	古代伊勢国菟芸郡の郡家と条里	報88	1-13	1976
284	野村康子	常陸国桜川中・下流域の条里	報89	32-37	1977
285	中野栄治	古代紀伊国日高郡の条里と郡家	報94	21-27	1977
286	吉本昌弘	恭仁京跡の条里地割について	歴110	10-15	1980
287	三浦 肇	山口県下における条里遺構について	歴115	37-50	1981
288	伊藤寿和	讃岐国における条里呼称法の整備過程	歴120	15-28	1983
289	伊藤寿和	平安中期における阡陌地割・条里坪付法・農業の諸相-栄山寺領大和国宇智郡河南条里を事例として	歴129	1-17	1985
290	伊藤寿和	近江国の「町」地名をめぐる-条里呼称法の基礎的研究-	紀31	131-152	1989
291	鈴木貞夫	会津盆地における条里型地割の分布	紀31	217-231	1989

土地所有・検地・石高

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
292	三浦保寿	椎葉村焼畑検地帳の歴史地理学的研究-(その1)-	紀11	5-18	1969
293	金井忠夫	近世片品川流域の山村の年貢率とその実態	紀11	73-99	1969
294	三浦保寿	椎葉村焼畑検地帳の歴史地理学的研究-その2-	紀14	179-192	1972
295	浅沼 操	富山平野東部における田地割替制度について	報79	2-17	1975
296	田中欣治	三重県員弁郡における大安寺墾田について	報88	28-32	1976
297	重見之雄	塩田の所有形態とその変化について(2)-特に愛媛県伯方塩田を中心として-	報94	1-10	1977
298	高木幹雄	松江藩における「水代」の歴史地理	報99	1-10	1978
299	大嶽幸彦	土地台帳より見たる土地所有の細分化と均等分割制-マインツ近郊ギンスハイムを例として-	報106	11-16	1979
300	羽山久男	近世前期の阿波国野尻村における耕地の存在形態	紀23	127-157	1981
301	重見之雄	塩田の所有形態とその変化について(5)-広島県瀬戸田塩田			

		を中心として-	歴117	13-27	1982
302	酒井右二	近世前期下総における組合村と検地-下利根流域根郷五ヶ村組合を事例として-	歴121	1-16	1983
303	中藤 淳	江戸町人地における土地所有変動の地域的差異	歴134	31-42	1986
304	川澄正幸	南部藩岩手郡西根村における近世農民階層と耕地保有	歴138	32-42	1987
305	重見之雄	山口県防府市三田尻塩田における所有者の変遷について	歴144	1-20	1989
306	安田初雄	近世初頭の米沢城下とその近傍との歴史地理的管見-太閤検地の高との関わりからみて-	紀32	59-87	1990
307	山崎達夫	近世前期の武蔵国廣瀬村における耕地の所有	歴166	1-19	1993

林 業

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
308	松村安一	スギのさし木林業の歴史地理学的考察-スギのさし木林業の研究 第3報-	紀8	19-46	1966
309	松村安一	四谷林業とその地理学的意義	紀17	281-301	1975
310	小栗 宏	COMMONの解体と日本の入会林野の場合	紀23	107-125	1981
311	藤田佳久 ・渋谷直幸	兵庫県丹波地域における入会林野の展開と再編成	紀23	159-190	1981
312	池野 茂	沖縄林政史に関する一考察	紀24	43-68	1982
313	松尾容孝	吉野山村における育林生産の諸類型とその変容系列	歴135	16-35	1986
314	立石友男	林野利用からみた変革期-解題にかえて-	紀32	5-19	1990
315	藤田佳久	近世における林野利用の展開にみられる東北日本と西南日本-木曽型および飛騨型林業の限界と吉野林業の集約的展開-	歴157	24-42	1992
316	新井桂子	関東平野東部の農村における林産物の生産環境-千葉県山武郡山武町を事例として-	歴167	31-41	1994

水 産 業

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
317	田中豊治	三陸常磐の漁業地域の変貌	紀2	99-121	1960
318	新宅 勇	明治漁業の変貌過程-響灘海岸漁村-	紀11	147-165	1969
319	矢ヶ崎孝雄	能登半島の海と人	紀13	19-37	1971
320	大島襄二	大村湾の真珠養殖業-採貝採藻漁村と浅海養殖漁村-	紀13	39-60	1971
321	島田正彦	一九世紀を中心としたフランス漁民の新大陸タラ通漁	紀13	61-79	1971
322	田中豊治	丹後沿海地域の漁業生産および流通に関する歴史地理学的研究	紀15	193-226	1973

323	田中豊治	明治後期の香住沖漁	報85	1-15	1976
324	田坂行男	第二次大戦後の経済発展に伴う内湾漁業の変容-アサリ採取 漁業を中心として-	歴115	15-28	1981
325	遠藤匡俊	近世の牡鹿半島における漁業紛争の処理	紀24	101-130	1982
326	大喜多甫文	近世のアマ潜水漁業	歴131	19-32	1985
327	千葉徳爾 ・山口昭博	太東崎器械根の発見と利用-技術と空間の拡大-	紀29	167-181	1987
328	田畑久夫	対馬における伝統漁業の変貌	紀29	183-207	1987

鉱 業

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
329	川崎 茂	日本産業革命期における鉱業の空間的展開	紀6	99-127	1964
330	斎藤実則	鉱山業の近代化と地域社会の展開-小坂院内鉱山の場合-	紀6	129-148	1964
331	斎藤実則	藩政時代の中規模鉱山の稼行歴と出鉱量-秋田藩・東福寺鉱山 の例-	報93	13-17	1977
332	鈴木貞夫	いわき市内郷白水における明治期の炭鉱とその変遷	紀25	117-181	1983
333	原田洋一郎	江戸時代における秩父郡中津川村鉱山の地域的基盤	歴168	1-16	1994

工 業

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
334	矢ヶ崎孝雄	白山麓白峰村における明治大正期製糸業の変貌	紀2	123-154	1960
335	川崎 敏	産業革命期の尾西機業地域	紀6	41-60	1964
336	田村正夫	埼玉県における明治初期の繊維産業	紀6	61-80	1964
337	竹内淳彦	阪神工業地帯の形成-工業構造変化を中心として-	紀7	111-131	1965
338	竹内淳彦	北九州工業地域の形成-明治大正期を中心として-	紀8	77-90	1966
339	田村正夫	明治前期における綿織業に関する一考察	紀11	167-184	1969
340	川崎 敏	名古屋市における明治時代の工業化	紀12	5-28	1970
341	田村正夫	北陸における明治前期の繊維産業-織物業を中心に-	紀12	29-49	1970
342	北村嘉行	わが国靴下工業地域の形成	紀12	51-73	1970
343	井出策夫	地方地場産業の変遷-兵庫県豊岡の鞆鞆工業の場合-	紀12	75-91	1970
344	板倉勝高	真継鋳物師の分布と残存形態	紀12	93-118	1970
345	竹内淳彦	機械工業地域成立の基盤-明治期を中心として-	紀12	119-148	1970
346	山口守人	刃物工業の地域集団の構成要素と構造	紀12	149-181	1970
347	原田 栄	明治末期における新聞産業-地方新聞を中心に-	紀12	183-208	1970
348	海道静香	敦賀における昆布加工業の歴史	報107	27-32	1980

349	大塚昌利	浜松における繊維機械工業の成立	報108	13-24	1980
350	中藤康俊	絹織物業の展開と農業・農村	歴109	12-23	1980
351	松村祝男	産業資本確立期を中心とした庄内松岡製糸所の地域的機能について	紀25	159-184	1983
352	磯部啓三	バリ西郊における工業の動向について-第一次大戦中および 両大戦間期におけるスレーヌとピュトー-	紀25	185-203	1983
353	河島一仁	「紀州鍛冶」の受容に関する一考察-京都府船井郡の場合-	紀26	103-125	1984
354	山中 進	大阪市とその周辺農村における輸出雑貨工業の地域的展開 -明治期～大正期-	歴126	1-17	1984
355	多田統一	農村地場産業の特色と問題点	歴131	33-39	1985
356	多田統一	大正後半期から昭和初期にかけての本邦の缶詰業-農産缶詰 を中心として-	歴136	28-35	1987
357	多田統一	明治・大正初期における本邦の缶詰業-農産缶詰を中心として-	歴140	28-34	1988
358	椿 真智子	静岡県清水地域を中心とする和糖生産の変容過程	歴145	21-35	1989
359	赤羽孝之	新潟県上越地方におけるスキー工業-ある地場産業の崩壊-	歴146	20-28	1989
360	馬場 章	鯖江における漆器工業の技術変化と生産構造	歴148	1-11	1990

商業・流通

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
361	田中豊治	三陸地方の海産物市場と流通問題	紀3	15-28	1961
362	中丸和伯	商品流通と地域社会	紀3	45-57	1961
363	菊池一雅	ユルボア地方の商品流通-とくに製粉業の歴史地理学的基礎-	紀3	159-171	1961
364	黒崎千晴	東・西大商圏とその変貌-明治前期における米の流通を中心と して-	紀6	23-40	1964
365	澤田 清	茨城県における商圏の変容	紀12	209-230	1970
366	田中豊治	水産物消費市場の流通形態の変化と産地市場-山陰地方の場合-	紀13	81-104	1971
367	樋口節夫	大正における朝鮮産米の海上輸送と釜山-日鮮貿易の一断章-	紀13	105-123	1971
368	原田 栄	長野県の新聞配布地域-その南北性について-	紀13	205-222	1971
369	田中豊治	隠岐における長崎俵物の歴史地理学的研究	紀14	193-226	1972
370	田村正夫	首都圏の都市成長前線帯における小売商の形成-埼玉県毛呂 山町長瀬団地の場合-	紀15	147-171	1973
371	内田秀雄	守山市に就いて	紀15	251-264	1973
372	田中豊治	近世末期隠岐島水産物商品化の展開過程と流通形態の歴史地 理学的研究	紀16	271-319	1974
373	菊地利夫	城下町小売商業の盛衰-水戸・川越の場合-とくに郷分地商業 と関連して-	紀19	109-128	1977
374	田村正夫	埼玉県における20世紀初頭の織物商分布	紀19	239-261	1977

375	伊藤好一	甲武鉄道開通前における東京・多摩地方の商品流通	報94	11-20	1977
376	田村正夫	日用・食料品商の建家と営業税-飯能における1880年代の種目別考察-	報105	11-22	1979
377	田中豊治	近世能登俵物の歴史地理学的研究	報107	11-11	1980
378	小野寺 淳	黒沢尻河岸からみた明治期北上川水運-輸送物資の動向を中心として-	紀22	53-68	1980
379	井上政一	明治後期の群馬県における商店の地域的展開（第1報）	歴109	24-32	1980
380	白石太良	明治・大正期における酒米の合同販売と集落-大阪府北部の事例から-	歴111	16-26	1980
381	新井鎮久	利根川中流右岸農村における青果物産地市場・産地仲買商と産地形成	歴119	16-35	1982
382	井上政一	文明開化業種の地域的展開-明治40年の栃木県を事例として-	紀25	133-157	1983
383	岩崎公弥	近世西三河地域における木綿流通の地域的展開	紀26	15-32	1984
384	中村周作	海産物行商からみた集落間結合とその変化-出水市名護地区と背域との関係を中心に-	紀26	127-146	1984
385	橋本征治	近世後期における在村（ムラ）商人の分布的考察-加賀藩礪波地方を事例に-	歴134	1-16	1986
386	岡村 治	明治期三条町の「市」と店舗商業	歴134	17-30	1986
387	藤田裕嗣	安芸国沼田荘の市場と瀬戸内流通網	歴136	1-17	1987
388	古田悦造	近世後期関東における所領地の変動と魚肥流通	紀30	153-173	1988
389	中里亜夫	明治・大正期における朝鮮牛輸入（移入）・取引の展開	紀32	129-159	1990
390	矢ヶ崎典隆	太平洋戦争前におけるロサンジェルスの中果物流通と日本人	歴156	1-14	1991

観 光

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
391	山村順次	温泉観光集落の発達と機能-中伊豆の修善寺・伊豆長岡の場合-	紀10	125-158	1968
392	稲見悦治 ・森 昌久	六甲山地の観光・休養地化について	紀10	159-190	1968

交 通

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
393	小川博三	藩政時代に於ける岩木川水路と十三港	紀3	1-13	1961
394	風間観静	仙台福島間の交通路について	紀3	29-44	1961
395	松村安一	近世わが国の道路交通	紀3	59-94	1961
396	桐野利彦	南九州の海上交通の性格	紀3	145-158	1961

397	佐々木清治	助郷村の諸問題	紀5	215-241	1963
398	黒崎千晴	地域内交通の変貌に関する一試論-荷馬車・牛車の導入・普及過程を中心として-	紀8	107-120	1966
399	矢ヶ崎孝雄	明治後期における石川県下の交通	紀8	121-138	1966
400	浅香幸雄	明治15年の宮城県野蒜港新市街地所払下公告	紀8	187-193	1966
401	青木栄一	第一次産業地域における局地鉄道の建設-地主金融資本の役割を中心として-	紀11	185-202	1969
402	長久保光明	交通史の一場面-浜街道と陸前浜街道について-	紀11	235-246	1969
403	丸茂武重	令制・駅の基礎的研究	紀16	5-18	1974
404	山田安彦	陸奥の古代交通路研究に関する二つの問題	紀16	19-46	1974
405	金坂清則	上野国府とその付近の東山道, および群馬, 佐位駅家について	紀16	47-80	1974
406	中林 保	古代陰陽横断路-山陰側を中心とした歴史地理学的考察-	紀16	81-97	1974
407	足利健亮	吉備地方における古代山陽道・覚え書	紀16	99-128	1974
408	日野尚志	古代における太宰府周辺の官道について	紀16	129-147	1974
409	丹治健蔵	幕藩制転換期における利根川舟運の統制-上州川井河岸の衰退と前橋藩・川越藩	紀16	149-188	1974
410	矢ヶ崎孝雄	奥能登における内陸交通	紀16	189-203	1974
411	村瀬正章	知多の廻船と沿岸交通-元禄から文政期にいたる-	紀16	205-223	1974
412	土田良一	上諏訪宿の困窮過程と地域構造-伝馬役助成としての問屋口銭-	紀19	161-181	1977
413	日野尚志	南海道の駅路-阿波・讃岐・伊予・土左四国の場合-	紀20	151-177	1978
414	中島義一	徳川将軍家御殿の歴史地理的考察(第2報)-駿河・伊豆以西の場合-	報97	10-18	1978
415	乾 幸次	山城国泉河樺井渡瀬についての補考	報99	11-16	1978
416	東 皓傳	瀬戸内海における海象と無動力船の航行	報101	1-11	1979
417	中林 保	近世鳥取藩の宿駅	紀21	145-174	1979
418	吉本昌弘	摂津国有馬郡を通る計画古道と条里	報104	13-17	1979
419	山本 実	鎌倉道の文献と遺構	報104	19-24	1979
420	池田雅美	北上川の河道変遷と旧河港について	紀22	29-52	1980
421	千葉徳爾	住民の盛衰からみた阿賀川の河港塩川	紀22	109-125	1980
422	権田雅幸	兵庫県多紀郡における交通路の変遷と地域発達	歴111	27-37	1980
423	土田良一	江戸時代における街道交通量	歴117	28-38	1982
424	佐々木清治	宿場町と助郷村との関係	紀26	147-170	1984
425	木下 良	日本古代駅路とローマ道との比較研究-序説-	歴124	1-16	1984
426	林 正次郎	中近世(文禄3年以前)における淀(巨椋池を含む)周辺の交通路	歴127	1-15	1984
427	原 高則	明治末期における利根川の舟運	歴127	16-24	1984
428	石崎直義	越中人の二十四輩順拝の旅	紀27	151-172	1985
429	吉本昌弘	播磨国明石駅家・摂津国須磨駅家間の古代駅路	歴128	15-25	1985

430	木下 良	歴史地理的にみた交通・通信・情報の諸問題-解題にかえて-	紀28	5-39	1986
431	金坂清則	若狭国府・濃飯駅家における古代北陸道-北川河谷の交通の歴史地理その一-	紀28	41-77	1986
432	橋本初子	東寺領庄園と東寺-古文書からみた年貢輸送の実態-	紀28	79-103	1986
433	東 皓傳	芸予諸島における古代航路の形成とその展開	紀28	105-124	1986
434	長野 覺	修験集団にみる山岳通行(情報・交通)の実態	紀28	125-150	1986
435	梅原隆治	インカ期アンデス地域の交通・通信	紀28	151-168	1986
436	青木栄一	近代交通研究における歴史地理学の性格と方法	紀28	169-181	1986
437	岩鼻通明	道中記にみる出羽三山参詣の旅	歴139	1-14	1987
438	関口靖之	古代山城国境での疫神祭祀地と主要な通路	紀30	5-26	1988
439	梅原隆治	ペルーにおけるインカ道の諸形態	歴141	1-16	1988
440	田中智彦	大坂廻りと東国の巡礼者-西国巡礼路の復元-	歴142	1-16	1988
441	三木理史	近代交通形成過程における鉄道交通の機能変化-三重県伊賀地方の場合-	歴143	1-22	1988
442	三木理史	昭和初期における地方鉄道事業の形成と産業資本-三重県・三岐鉄道の事例-	歴147	10-22	1989
443	木本雅康	下野国那須郡を中心とする古代交通路について	歴148	12-22	1990
444	青木栄一 ・栗原 清	大井川鉄道の成立-ある電源開発鉄道の建設過程-	歴150	1-21	1990
445	中村太一	山陽道美作支路の復原的研究	歴150	22-34	1990
446	木下 良	交通・運輸の変遷とその変革期の諸問題	歴152	48-65	1991
447	富岡儀八	木下報告に対するコメント	歴152	66-70	1991
448	岡島 建	近代都市における水運利用について-名古屋の事例を中心として-	歴154	1-17	1991
449	三木理史	近代瀬戸内海地域における地域交通体系の変容 -海陸連絡機能を中心として-	歴175	1-21	1995

政 治

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
450	池田善昭	政治地域の歴史地理学的研究における諸問題	紀1	161-181	1959
451	池田善昭	古代中国における種族共同体の再編過程と政治地域	紀4	21-39	1962
452	服部昌之	古代の直線国境について	紀17	5-29	1975
453	山田安彦	古代東北における城柵と郡界に関する問題	紀17	31-61	1975
454	川村博忠	元禄国絵図の調製と国境整備-筑前福岡藩の場合-	紀17	61-75	1975
455	白石太良	空間的広がりとしての近世郷域と明治地方行政領域の整合関係-因幡国の場合-	紀17	77-98	1975
456	林 正巳	出羽・越後国境の研究-鼠ヶ関地区-	紀17	98-111	1975

457	佐々木清治	明治前期における地方行政区画の変遷	紀17	113-140	1975
458	池田善昭	島根県の行政区画制定の過程と県域をめぐる係争について	紀17	141-156	1975
459	山田正浩	朝鮮における1914年の行政区画改正について-郡区画の検討を中心にして-	紀17	157-179	1975
460	村井誠人	デンマーク・ドイツ国境の成立とその性格	紀17	181-204	1975
461	太田晃舜	海洋境域の変遷とその趨勢	紀17	205-229	1975
462	大越勝秋	政治区画境界線の根拠	紀17	231-240	1975
463	梶川勇作	政治区画の幾何形のモデルと測定	紀17	241-257	1975
464	池田雅美	伊達・南部藩境の集落	紀17	259-280	1975
465	古賀敏朗	佐嘉藩西部藩境石の歴史地理的研究	報82	11-17	1975
466	佐々木清治	駿河の旗本領	報87	1-14	1976
467	林 正巳	府県境についての疑念とその解明	報92	1-13	1977
468	井戸庄三	明治6-10年の町村合併と新町村名-合成名称と人為名称を中心として-	紀20	321-333	1978
469	白石太良	鳥取県における明治期の町村合併状況について	報98	1-15	1978
470	新井鎮久	戦後農政の展開と農業地理学の動向-政策と地域形成-	報98	16-27	1978
471	山本光正	房総海辺防備と交通	報102	1-12	1979
472	小和田哲男	信玄・家康の駿遠分割案と駿遠国境	報108	25-28	1980
473	石崎直義	古代越中の豪族利波臣一族の隆替とその居館址考	歴110	1-9	1980
474	藤岡謙二郎	古代の山頂及び山嶺線の歴史地理学的意義-とくに三国山と国見山について-	紀23	5-21	1981
475	丸茂武重	丹後・安房二国設置について	紀24	131-144	1982
476	井戸庄三	明治初期の大区小区制の地域性について	歴123	12-27	1983
477	矢野正浩	所領設定からみた薩摩藩地方知行の地域構造	紀30	69-91	1988
478	阿由葉 司 ・鶴崎清治	明治期における千葉・茨城県境変更について-千葉県香取郡の動向を中心として-	紀30	175-193	1988
479	井戸庄三	明治前期の市町村制度にみられる「統治」の論理, 「行政」の論理, 「自治」の論理	紀30	195-211	1988
480	佐々木高弘	「畿内の四至」の防御地点としての性格について-閉塞の存在の可能性について-	歴142	17-31	1988

地域計画・地域開発・土地開発

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
481	稲見悦治	港都神戸の都市化と海岸線の変貌	紀2	155-176	1960
482	桑原公德	条里遺構の面積を中心にしてみた古代開発-河内国を例にとって	紀5	79-103	1963
483	谷岡武雄 ・小林 博	愛知川中・下流域における中世の土地開発と豪族屋敷	紀5	137-161	1963

・日下雅義

484	長井政太郎	開拓の歴史地理学的研究-鬼面川扇状地を例として-	紀7	5-23	1965
485	山口守人	地理的慣性と開発	紀7	95-110	1965
486	三浦鉄郎	矢島藩・本荘藩・亀田藩の新田開発	紀10	235-251	1968
487	小沢利雄	江戸の埋立地造成と木場の移転	紀13	167-183	1971
488	羽山久男	近世山村における耕地開発と水論および山論-阿波国勝浦郡 野尻村の事例	報86	14-24	1976
489	松村祝男	庄内平野における士族授産事業の展開とその地域的機能に関 する一考察	紀19	283-313	1977
490	高野豊文	微地形から歴史を読む-特に水田開発を中心に-	報96	27-32	1978
491	山田安彦	山岳と冬至太陽出没方位と古代地域計画の理念	紀23	23-55	1981
492	飛田雅孝	近世越後平野の開発について	歴120	29-38	1983
493	木本雅康	日置・壬生吉志と氷川神社 -古代の方位信仰を手がかりとして-	歴163	17-37	1993

災害・防災・環境

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
494	千葉徳爾	林地荒廃現象からみた朝鮮半島南部の歴史的地域構造	紀4	127-147	1962
495	池田雅美	岩手県における冷害対策の歴史地理	紀5	251-264	1963
496	菊池万雄	天明飢饉の考察-寺院過去帳による実証-	報81	2-14	1975
497	木下 良	災害による国府の移転	紀18	5-24	1976
498	山田安彦	水害発生常習地の歴史地理学的研究に関する課題	紀18	25-55	1976
499	池田雅美	岩手県における冷害と対策について	紀18	57-72	1976
500	矢嶋仁吉	多摩川の水害と万葉歌碑について	紀18	73-82	1976
501	村瀬正章	干拓新田における災害の歴史地理-三河国平七新田を例として-	紀18	101-118	1976
502	伊藤安男	輪中の災害と治水-宝暦治水以降の水論について-	紀18	119-137	1976
503	伊藤重信	長島輪中地域の水害と新田開発の歴史地理	紀18	139-158	1976
504	松原義継	高須輪中の水害についての考察	紀18	159-179	1976
505	立石友男	藩制時代における海岸砂丘防災林の造成事例	紀18	181-199	1976
506	籠瀬良明	明治22年十津川水害	紀18	205-225	1976
507	千葉徳爾	昭和36年伊那谷集中豪雨における小渋川流域の崩壊災害につ いて	紀18	227-248	1976
508	伊藤安男	古地図よりみた輪中災害	紀21	85-102	1979
509	南雲栄治	浅間火山北麓における鎌原村の歴史地理学的研究	紀23	273-307	1981
510	藤田佳久				
	・北野信彦	静岡県竜山村における歴史的山地災害とその発生環境	歴114	1-12	1981
511	池内長良	幕府の享保飢饉における幕府領・私領への救済	歴145	1-20	1989
512	千葉徳爾	近世金沢平野地域の野獣害-特にニホンオオカミについて-	歴163	38-47	1993

513	有蘭正一郎	近世末の土地利用からみた日本の環境	歴167	16-30	1994
514	浅香勝輔	環境変化と都市型火葬場	歴167	42-64	1994
515	中山正民	駿府とその周辺地域の開発 -環境史から見た安倍川と駿府との関係-	歴168	17-32	1994
516	池内長良	近畿地方における享保17年の蝗害と取箇の分布	歴173	21-44	1995

文化・社会

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
517	千葉徳爾	民間伝承のもつ機能の変化と民俗周囲論	紀2	229-247	1960
518	大越勝秋	和泉地方における宮郷と農業用水・共有山	紀9	85-106	1967
519	太田晃舜	インドシナ辺境における民族と国家形成の歴史地理的一考察	紀13	223-256	1971
520	水津一朗	言語と地域-ヘルダー「言語起源論」200年記念によせて-	紀15	5-24	1973
521	桜井正信	古代地域の設定とその方法-歌謡の系譜とその理論-	紀15	25-42	1973
522	山田安彦	律令国家の漸移地帯における局地的文化圏	紀15	43-72	1973
523	千葉徳爾	中国中南部の土壤侵蝕と農耕文化	紀15	73-96	1973
524	佐藤甚次郎	民家の地理学的研究における文化系統	紀15	97-113	1973
525	菊地利夫	「七里ヵ法華」の歴史地理学的研究	紀15	115-134	1973
526	別技篤彦	食人慣行社会の変容過程-スマトラ、バタク族の場合-	紀15	135-145	1973
527	橋本征治	近世の砺波地方における神社の広域祭祠圏について	報90	1-12	1977
528	佐島直三郎	岩手県の古民家研究-南部の曲り屋について-	歴109	1-11	1980
529	長野 覺	日本の山地に形成された入峰道（行者道）の歴史地理的予察	紀23	57-83	1981
530	佐藤甚次郎	炊事用空間のカヤマとミズヤの呼称の分布-日本の住家系統とその分布・地域的変容に関する一つのアプローチ-	歴112	1-18	1981
531	千葉徳爾	山地における狩猟秘伝書の伝播について	歴112	19-28	1981
532	小野寺 淳	板碑原石の伝播過程研究試論-三多摩を対象として-	歴114	28-36	1981
533	大島襄二	南太平洋における宣教史の地理学的研究-トレス海峡に「光の来た日」-	歴119	36-45	1982
534	黒崎千晴	文盲率低下の地域的動向	紀25	21-41	1983
535	森 正康	地域社会における教派神道の受容と定着-山梨県下の禊教-	歴130	1-17	1985
536	瀧音能之	古代の日本海と伯耆国宗形神社	歴132	21-30	1986
537	千葉徳爾 ・山口昭博	武州御岳御師の旦廻活動-天保期を中心として-	歴132	31-37	1986
538	椿 真智子	法華宗移民における同化過程の考察-米沢藩椿村を事例として-	歴138	14-31	1987
539	長野 覺	山岳霊場における聖・俗境界の諸相-九州英彦山を事例として-	紀30	123-151	1988
540	神尾明正	式内青渭神社の鎮座地について	歴141	25-32	1988
541	育古真哉	遷都の神祇祭祀におよぼす影響について	紀32	45-58	1990
542	島津俊之	奈良東山中「新西国三十三所」と村落間結合	歴151	1-15	1990

543	育古真哉	模造獣狩儀礼の分布-三河・信濃・遠江国境地域のしかうちを中心に-	歴157	85-97	1992
544	大城直樹	村落景観の社会性-沖縄本島北部村落の祭祀施設の場合-	歴159	2-20	1992
545	瀬賀章代	石川県輪島崎における古民謡「まだら」の伝承について	歴165	25-37	1993
546	佐々木史郎	韓国済州島の別棟型民家の成立に関する予察的研究	歴171	2-18	1994
547	千葉徳爾	「マット」と「ケット」後日譚	歴175	22-29	1995

知覚・行動

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
548	菊地利夫	近世九十九里浜の不漁に対する領主と漁民の行動	紀18	83-100	1976
549	山田安彦	平泉古図からみた地域空間構成の理念	紀21	5-54	1979
550	山田安彦	紀伊・房総両半島における地名分布の類似性と古代日本人の擬きの連想空間	紀24	145-181	1982
551	小口千明	集治監を核とした集落の形成と住民の集治監像	紀25	43-70	1983
552	小口千明	家相観にみる空間評価の相対性-埼玉県における「富士向き」伝承と易との対比から-	歴122	1-14	1983
553	安田喜憲	森の民としての日本人の空間認知-縄文人の空間認知をめぐる-	紀27	15-38	1985
554	佐々木卓也	空間意識のパラダイムと古代エジプト文明理解の新見地-空間意識としての"Ba"と"Ka"をめぐる-	紀27	39-62	1985
555	黒田晃弘	伊勢野考-『播磨国風土記』に表現された「野」の"イマージュ"	紀27	63-84	1985
556	五十嵐 勉	近世村絵図にみる空間表現の歴史的変化-播磨国「真広村絵図」の通時的分析-	紀27	85-108	1985
557	小野寺 淳	絵図にみる近世河川航路の空間認識	紀27	109-129	1985
558	岩鼻通明	参詣曼荼羅にみる立山修験の空間認識	紀27	131-149	1985
559	小口千明	忌言葉「ヒロシマへ行く」にみる他界の認識像とその変化	紀27	211-236	1985
560	脇田武光	埼玉県東松山市における都心移動の空間認知に関する歴史地理学的研究	紀27	237-260	1985
561	関戸明子	民族資料からみた村落の土地利用と環境認識	歴172	2-16	1995

地図・地名

No.	著者名	文献タイトル	号	ページ	年
562	三上正利	一七世紀のロシア製シベリア諸地図	紀4	87-110	1962
563	山口恵一郎	地域名称の意義-地名形成の歴史地理-	紀7	201-223	1965

564	清水靖夫	東京の地籍図類	紀8	157-167	1966
565	古賀敏朗	藩境絵図作成の失敗例について-佐嘉・大村藩の場合-	報90	13-19	1977
566	田中方男	ポイティンゲル図研究の回顧と現状	報93	18-22	1977
567	川村博忠	新国絵図清書の報告書「元禄国御絵図仕立覚」について	報97	19-22	1978
568	川村博忠	正保国絵図の調進と絵図様式の統一化について	紀21	55-84	1979
569	清水靖夫	2万分1迅速測図の内容について	紀21	103-122	1979
570	田中方男	ポイティンゲル図に現われた地名の現位置比定の方法とその 成果について-イタリア・イギリスを例として-	紀21	123-144	1979
571	川村博忠	明歴大火被災による正保国絵図の再提出について	報103	11-16	1979
572	佐藤甚次郎	明治前期の地籍図-その1 耕地絵図と壬申地券地引絵図-	歴116	1-29	1982
573	小和田哲男	戦国城下図の信憑性について	歴123	1-11	1983
574	三好唯義	日本地図の変遷とイエズス会報告	歴126	36-48	1984
575	長久保光明	長久保赤水の日本地図編集のあらまし	歴127	25-35	1984
576	籠瀬良明	中世城址の地形図による表示	歴128	1-14	1985
577	大羅陽一	土地宝典の作成経緯とその資料的有効性	歴137	1-20	1987
578	川村博忠	藩政基本資料としての地方絵図-萩藩の村図・郡図・小村図-	紀30	93-122	1988
579	関戸明子	地名研究の視点とその系譜-小地名の研究を中心に-	歴140	17-27	1988
580	吉田敏弘	四至勝示絵図考	歴144	21-43	1989
581	佐藤甚次郎	明治12年の郡別経済地図作成について-記号および彩色区分 表現法の展開との関連で-	歴149	24-39	1990
582	磯永和貴	宇治市歴史資料館本「正保山城国絵図」の記載内容	歴169	23-45	1994
583	岩崎公弥	メソスケール地域の地誌的資料としての近世村絵図の利用	歴172	39-54	1995
584	五十嵐 勉	岩崎公弥報告「メソスケール地域の地誌的利用としての近世 村絵図の利用」によせて	歴172	55-56	1995
585	服部昌之	万葉集の地名 -金坂清則報告によせて-	歴172	105-108	1995
586	川村博忠	寛永国絵図の縮写図とみられる「日本六十八州縮写国絵図」	歴176	1-19	1995

地 誌

No.	著 者 名	文献タイトル	号	ページ	年
587	中丸和伯	中世社会の展開と地域の変貌-西相州を例として-	紀2	59-77	1960
588	菊池一雅	フランスの近代化と地域の変貌-ユルボア地方における歴史 地理学の一特質-	紀2	177-201	1960
589	松田寿男	シベリア史論	紀4	1-20	1962
590	手塚隆義	嶺南考-秦より漢初期の南シナ-	紀4	41-57	1962
591	別技篤彦	モジョバイトの頌詩ナガラクルタガマ	紀4	59-85	1962
592	浅香幸雄	東海道線全通前後における東海地方の諸相-清水市を中心と して-	紀6	5-22	1964

593	千葉徳爾	いわゆる裏日本の形成について-歴史地理的試論-	紀6	165-180	1964
594	千葉徳爾	いわゆる裏日本の形成について(第2報)-商品取引組織からみて-	紀8	91-106	1966
595	梶川勇作	近世飛騨の地域組織	紀14	29-44	1972
596	大喜多甫文	神島における社会・経済構造とその変化	紀24	19-41	1982
597	関口靖之	古代淡路国の社会・経済的特性	紀24	183-192	1982
598	梶川勇作	近世後期の名古屋近郊の土地条件	歴126	18-35	1984
599	芳賀 登	官撰地誌と山野の巡検-『斐太後風土記』と地役人-	紀30	45-68	1988
600	田村正夫	日本におけるプロト産業化期の地域活性化(2)-群馬・埼玉両県における公立小学校立地集落の最高活性化-	紀32	109-128	1990
601	田村正夫	日本におけるプロト産業化期の地域活性化(3)-群馬・埼玉両県における公立小学校立地集落の最低活性化-	歴153	1-19	1991
602	田村正夫	日本におけるプロト産業化期の地域活性化(4)-長野県における公立小学校立地集落の活性化-	歴158	2-21	1992
603	片上広子	松浦武四郎の調査記録による蝦夷地の地域構造の分析	歴158	22-36	1992
604	田村正夫	日本におけるプロト産業化期の地域活性化(5)-新潟県(越後)における公立小学校近接集落の活性化-	歴165	1-24	1993
605	籠瀬良明	1890年劇作家チェーホフの樺太3ヵ月踏破-地理と文芸などの接触考-	歴173	2-20	1995

著者名索引

著者名			文献 No.					
<あ>								
青	木	栄	一	41	401	436	444	
赤	羽	孝	之	359				
芥	川	竜	男	114				
浅	香	勝	輔	514				
浅	香	幸	雄	23	91	155	400	592
浅	沼		操	81	295			
足	利	健	亮	70	206	407		
阿	部	和	夫	234	235	237	244	264
阿	由	葉	司	275	478			
新	井	桂	子	316				
新	井	寿	郎	228				
新	井	鎮	久	381	470			
有	蘭	正	一郎	513				
<い>								
五十嵐		勉		144	556	584		
池	内	長	良	511	516			
池	浦	正	春	105				
池	田	勝	幸	152				
池	田	雅	美	107	113	420	464	495 499
池	田	善	昭	190	263	450	451	458
池	野		茂	312				
石	崎	直	義	428	473			
磯	永	和	貴	582				
磯	部	啓	三	352				
板	倉	勝	高	6	344			
井	出	策	夫	343				
出	田	和	久	151				
井	戸	庄	三	85	468	476	479	
伊	藤	重	信	503				
伊	藤	寿	和	271	288	289	290	
伊	藤	安	男	261	502	508		

伊 藤 好 一	375				
稲 見 悦 治	392	481			
井 上 政 一	179	379	382		
猪 俣 好 光	278				
乾 幸 次	146	241	415		
岩 崎 公 弥	255	383	583		
岩 鼻 通 明	437	558			
<う>					
ウィットフォーゲル, C. A.	256				
上 田 正 夫	82				
浮 田 典 良	226				
碓 井 照 子	188				
内 田 秀 雄	371				
内 田 実	224				
梅 原 隆 治	435	439			
<え>					
遠 藤 匡 俊	325				
<お>					
大喜多 甫 文	326	596			
大 越 勝 秋	125	267	280	462	518
大 島 襄 二	320	533			
大 城 直 樹	544				
太 田 晃 舜	196	225	233	461	519
大 嶽 幸 彦	30	32	33	299	
大 塚 昌 利	349				
大 羅 陽 一	265	577			
岡 島 建	448				
岡 村 治	386				
岡 本 兼 佳	236				
小 川 博 三	393				
小 口 千 明	551	552	559		
小 倉 真	249				
小 栗 宏	110	121	310		
小 沢 利 雄	487				
小 野 忠 熙	12	20	67		
小野寺 淳	63	94	378	532	557
小和田 哲 男	165	258	472	573	
<か>					
海 道 静 香	348				

[illegible]

倉 田 康 夫	279					
栗 原 清	444					
栗 原 尚 子	36					
黒 崎 千 晴	31	37	40	364	398	534
黒 田 晃 弘	555					
桑 原 公 徳	149	282	482			
<こ>						
河 野 敬 一	197					
河 野 通 博	257					
古 賀 敏 朗	465	565				
小 林 健太郎	176					
小 林 博	483					
五 味 武 臣	260					
権 田 雅 幸	422					
<さ>						
斎 藤 実 則	330	331				
酒 井 右 二	302					
坂 口 慶 治	136					
桜 井 正 信	521					
佐々木 史 郎	265	546				
佐々木 清 治	281	397	424	457	466	
佐々木 高 弘	480					
佐々木 卓 也	554					
佐 島 直三郎	71	274	528			
佐 藤 甚次郎	265	524	530	572	581	
澤 田 清	365					
<し>						
重 見 之 雄	297	301	305			
渋 谷 鎮 明	56					
渋 谷 直 幸	311					
島 田 正 彦	321					
島 津 俊 之	52	542				
清 水 靖 夫	564	569				
白 石 太 良	380	455	469			
神 英 雄	203					
新 宅 勇	318					
<す>						
水 津 一 朗	3	49	520			
末 尾 至 行	266	268	269	273	276	

[illegible]

坪内庄次	8	83		
<て>				
手塚隆義	590			
寺本陽子	142			
天井勝海	88			
<と>				
鍋崎清治	478			
飛田雅孝	492			
戸祭由美夫	283			
富岡儀八	447			
豊田和二	28			
<な>				
長井政太郎	112	232	484	
中川正	202			
長久保光明	402	575		
中里亜夫	389			
中島義一	156	167	170	414
中島健一(訳)	256			
中島峰広	247	252		
中田栄一	19	27	119	
中塚良	76			
中藤康俊	350			
中西僚太郎	98	254		
中野栄治	242	285		
長野覺	434	529	539	
中林保	73	173	177	406 417
中藤淳	205	303		
中丸和伯	362	587		
中村佐太郎	141			
中村周作	384			
中村太一	445			
中山正民	61	515		
南雲栄治	130	178	509	
南波純	191			
<に>				
西村睦男	95			
西脇健治郎	128			
<の>				
野崎清孝	262			

野 間 晴 雄	272	277		
野 村 康 子	284			
<は>				
芳 賀 登	599			
橋 本 征 治	133	385	527	
橋 本 初 子	432			
服 部 昌 之	452	585		
馬 場 章	360			
浜 谷 正 人	135	143		
林 正次郎	426			
林 正 巳	456	467		
羽 山 久 男	300	488		
原 高 則	427			
原 田 栄	347	368		
原 田 洋一郎	333			
<ひ>				
東 皓 傳	416	433		
樋 口 節 夫	157	367		
日 野 尚 志	408	413		
平 岡 昭 利	124			
<ふ>				
福 井 好 行	1			
藤 岡 謙二郎	5	24	160	474
藤 岡 ひろ子	201	209	211	213
藤 田 裕 嗣	387			
藤 田 佳 久	311	315	510	
藤 本 孝 一	122			
藤 本 利 治	154	168		
古 田 悦 造	54	147	186	388
<へ>				
別 技 篤 彦	526	591		
<ほ>				
細 井 淳志郎	131			
<ま>				
前 田 正 名	227			
牧 野 洋 一	220	221		
松 尾 容 孝	313			
松 田 寿 男	589			
松 田 松 男	222			

松 原 義 継	90	504				
松 村 祝 男	251	351	489			
松 村 安 一	9	308	309	395		
松 本 豊 寿	164					
松 山 利 夫	239					
丸 茂 武 重	403	475				
<み>						
三 浦 鉄 郎	75	486				
三 浦 肇	287					
三 浦 宏	106	250				
三 浦 保 寿	292	294				
三 上 正 利	562					
三 木 理 史	441	442	449			
水 田 義 一	183					
溝 口 常 俊	93	97	248			
三 友 国五郎	66	74	111			
宮 本 真 二	65					
三 好 唯 義	574					
<む>						
村 井 誠 人	460					
村 瀬 正 章	411	501				
<も>						
元 木 靖	253					
森 勝 彦	148					
森 昌 久	392					
森 正 康	535					
<や>						
矢ヶ崎 孝 雄	127	231	319	334	399	410
矢ヶ崎 典 隆	390					
矢 嶋 仁 吉	500					
八 杉 淳	200					
安 田 初 雄	306					
安 田 喜 憲	21	553				
矢 野 司 郎	199					
矢 野 正 浩	477					
山 口 昭 博	327	537				
山 口 恵一郎	159	162	163	563		
山 口 源 吾	120					
山 口 守 人	346	485				

山 寄 謹 哉	7	22																	
山 崎 達 夫	307																		
山 田 邦 彦	229																		
山 田 志乃布	214																		
山 田 正 浩	138	459																	
山 田 安 彦	29	44	45	108	181	207	282	404	453	491	498	522							
	549	550																	
山 中 進	184	354																	
山 村 順 次	391																		
山 本 光 正	471																		
山 本 実	72	419																	
矢 守 一 彦	77	158	161	171	210														
<よ>																			
吉 川 博 康	166																		
吉 田 敏 弘	64	580																	
吉 原 健一郎	185																		
吉 本 昌 弘	270	286	418	429															
米 倉 二 郎	17	25	39	50	216														
<り>																			
李 恵 恩	212																		
<わ>																			
脇 田 武 光	180	560																	
渡 辺 秀 一	217																		
渡 辺 久 夫	116																		